

11月18日(土)手作り絵本を市内保育施設にクリスマスプレゼント

本の読み聞かせをボランティアで行っている「白ゆりグループ」(安武寿美代表)から、市内保育施設に手作り絵本が贈られました。

贈られた絵本は、布絵本と牛乳パック絵本の2種類で、毎月、元三木誠文堂の空き店舗を利用して読み聞かせを行っている同グループが、空き時間を使って4月から製作してきたものです。

絵本はメンバーと利用している子どもたちとで箱詰めされ、市を通して市内21の保育施設に届けられました。中央公民館図書室にも置いてありますので、興味のある人はご来館ください。



手作り絵本の配達準備をするメンバーと子どもたち

11月19日(日)食の大切さを学ぶ「だご汁と昔ばなし」

だご汁を食べながら昔話を聞き、食の大切さを学ぶ「だご汁と昔ばなし」が菊池女子高でありました。これは、児童の健全育成と食育を通じた世代間交流を目的に、市子育て支援課が開催したものです。

だご汁は、11月13日(月)に水源校区であった「団子サミット」秋のイモ掘りで取れたカライモを使って、午前中に同校厨房室で子どもを囲む約50人の手により作られました。

午後からは、お話会の参加者約200人が同校講堂に集まり、でき立てのだご汁やおにぎりを食べた後、昔話を聞きました。

語り部は、菊池市の姉妹都市である宮崎県西米良村から佐伯厚子さんと中武軌子さん、友好都市の岩手県遠野市から工藤さのみさんと菊池スミさんが招かれました。それぞれ地元で伝わる昔話を方言そのままではなく、分かりやすいように多少アレンジを加えて語ってくれました。

熱々のだご汁とぬくもりあふれる昔話により、親子連れで賑わった場内は、とても温かい雰囲気になりました。



「遠野のみかしばなし」を披露する語り部

11月18日(土)道の駅泗水養生市場で開店5周年記念(大感謝祭)

開店5周年を迎えた道の駅泗水 養生市場(賀久清豪支配人)から、開店6年目初日にレジで最初に精算したお客さんに記念品が贈られました。

その買い物客となったのは、同店に時々買い物に来るといふ吉里武廣さん(☎ 桜山一)で、「前日に玉ねぎの苗を買いにきたら売り切れだったので、今日は朝早くから買いにきました。このような記念式典があるとは、まったく知りませんでした」と、突然のことととても驚いた様子で話されました。

吉里さんには、友朋の里泗水取締役の松岡一教さんから、地元で取れた新鮮な野菜の詰め合わせなど、たくさんの記念品が贈られました。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず、店内はたくさんの買い物客で賑わっていました。



開店6年目最初のお客さんとなった吉里さん(右)

11月21日(火)林 洋子独演会～薩摩琵琶弾き語り～

合志市、菊池市などの有志による「賢治を薩摩琵琶で聞く会」実行委員会の主催で、女優林洋子さん(東京在住)の独演会が、泗水伝承館でありました。

林さんは、劇団俳優座から劇団三期会を経た後、フリーとなってから水俣病の実態に触れ、石牟礼道子原作「苦海浄土」を劇化されたことで知られ、1980年から「クラムボンの会」を主宰し多くの公演をしています。

この日は、林さんにとって1443回目の公演(海外公演含む)となり、宮沢賢治作品で、「賢治文語詩」の朗唱と「なめとこ山の熊」の弾き語りでした。林さんは、公演する物語などにより、インスピレーションで用いる楽器を決めるそうで、今回は、奏者の力加減で微妙な音を作り出せる魅力をもつ薩摩琵琶が使われました。

薩摩琵琶特有の五線譜では表せない無限の音と林さんの独特の節をつけての弾き語りは、ダイナミックでありながらもかつ繊細で、古民家を利用した会場いっばいに響きわたり聴衆を魅了していました。



演奏前に、薩摩琵琶についての説明などを熱心にする林さん

11月11日(土)オープンガーデン菊池「時忘れの会」

菊池市高野瀬の西山邸で「時忘れの会」があり、県内外からたくさんの方が訪れ、日本の伝統文化を楽しみました。

庭を通して仲間作りを進めている「オープンガーデン菊池(坂本栄子会長)」が主催して、毎年1回この時期に行っているもので、今回が5回目。

西山邸では、メンバーなどが抹茶や和菓子でおもてなしをする中、琴の演奏やお客として参加した人による尺八の演奏などがありました。

参加者は「雰囲気がとても良いし、菊池の良さも感じました」と、坂本会長は「一人でも多くの人に『時を忘れる』ほどの伝統文化を味わってもらえればうれしいです」と話されました。



西山邸であった「時忘れの会」で、秋を感じながらゆっくりとした時の流れを楽しむ参加者

11月9日(木)、11月14日(火)菊池北中で乳児ふれあい学習

菊池北中学校の2年生105人が、乳児とのふれあい学習をしました。

11月9日(木)には、助産師の坂梨先生を招いて、いのちの尊さや「生きているだけで100点満点」という感動的なお話を聴きました。

その後、シミュレーターを使った妊婦体験などを行い、しゃがむ動作などを通して、妊婦さん(自分たちを生んでくれたお母さん)の大変さを体験しました。

11月14日(火)には、生後3～9カ月の赤ちゃんとお母さん18組に協力をいただき、乳児とのふれあい体験をしました。

育児真っ最中のお母さんに、育児に関する質問をしたり、体重測定に際して衣服の着脱や赤ちゃんを抱っこしたりする中で、自分もこんなに大事にされてきたんだということを振り返りながら、親となることの責任や育てる喜び、乳児のかわいらしさ、いのちの尊さなどをそれぞれに感じ取ってくれたようです。

この事業は、思春期の子どもたちが乳児とふれあうことで、命の尊さや子育ての大切さ、母性・父性について考える機会とするため、総合学習の時間を使って、市と中学校の共催で、菊池北中学校では今年初めて実施されました。



学習に協力した18組の親子。学習の趣旨をご理解頂き、快く参加して頂き、ありがとうございました

11月12日(日)平成18年度しすいペタンク大会

さわやかな秋晴れの中、菊池市体育指導員協議会泗水支部(古谷修支部長)主催のしすいペタンク大会が孔子公園であり、15チームが参加しました。

この大会は、地域住民の健康増進と親睦を深めるために体育指導員主催として毎年開催されています。

今回も大きな声援を送りながら互いの交流を深め、終日笑い声が絶えない賑やかな大会となり盛会のうちに終了しました。

上位の結果は次のとおりです。
優勝 桜山七区A、2位 桜山七区C、3位 桜山七区B、4位 岡区B



孔子公園であったペタンク大会



実際に赤ちゃんを抱っこして命の尊さを学ぶ生徒



シミュレーターで、自分たちを生んでくれたお母さんの大変さを体験する生徒たち